

様式3 平成28年度新座市学校評価システム学校関係者評価シート

No.1

学校名	新座市立栗原小学校
実施日	平成29年 1月28日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、あいさつ、返事、発言・発表を相手に聞こえる声ではっきり言えるように指導し、成果を上げている。(独自)	B	指導は続けており、あいさつができる児童は増えたが、返事もまだまだ声の大きさや学年によって差があるため継続して指導が必要である。	A	・下校時に、地域への挨拶ができないことがあるが、継続して指導を。 ・指名された時の返事は、きちんとしている。声の小さいとき等継続して指導を。 ・挨拶は、地域でも継続して指導をしていく。
2	学校は、児童にめあてを示し、振り返りをさせる授業を行っている。(独自)	A	教員の理解が進み、本時のめあての提示と振り返りを実施することは全教職員で確認がとれ、できている。振り返りの時間がなかなかとれないのが課題である。	A	・落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・教師も、情熱を持って指導に当たっている。
3	学校は、清掃用具の使い方、清掃の仕方を指導して、きれいな教育環境を整備している。(独自)	B	話をせずに掃除をする「もくもく清掃」と「道具の使い方」は定着してきたが、「すみずみまできれいにする意識をもつ」ことを指導する必要がある。	B	・水回りの汚れが見受けられる。教職員が気づき、率先してきれいにする様子を見せ、児童に取り組みさせていくよう指導の継続を。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	部にもよるが、主任を中心に協力して進めている。	A	・協力して進められている様子が見受けられる。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	校長を中心に管理職への相談がしやすい。学校評価や各学力調査の結果なども研修での話し合いや職員会議での全体確認がされている。	A	・管理職を中心とした体制が確立している。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	夏季休業中に不審者対応の研修をするなど、教職員での確認はできている。マニュアルの掲示の仕方や周知徹底を図る必要がある。	A	・防災に関しては、地域を巻き込んだ体制作りが必要である。 ・早期の情報の把握に努める必要がある。また、情報提供も迅速に行えるように努めること。 ・緊急引き渡し時の完了メールの配信等、保護者・地域の立場に立った情報提供に工夫が見られた。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	「栗っ子の学習のきまり」や「栗っ子の生活のきまり」に基づいて指導をしているが、教職員の理解と児童の理解も今一步の感がある。児童は落ち着いて学習できている。	A	・学習ルールに従い、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	昨年までの国語の学校研究の成果もあり、言語活動を中心にした授業展開は全校で定着してきている。	A	・全学級で意欲的に学習に取り組み、よく思考している。

9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領や県の編成要領に基づいて作成した年間指導計画に則って指導を進めているが、児童一人一人への見届けが今ひとつだった。	B	・先生方の教材研究等の時間の確保が難しい。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	AETの努力で、協力して楽しく学習が進められている。担任が中心に授業を進めることもできてきた。「ALL ENGLISHでの学習展開」が求められる。	A	・児童は英会話に親しんでいる。 ・英会話講師と担任の連携ができています。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	A	あいさつをする児童は増えてきたという評価が多いが、「進んで」となるとできているとは言い難い。場に応じた言葉遣いも学年に応じてできるようになってきている。	A	・来校者への挨拶は、よくできている。 ・「～です。」「～ます。」は、授業中の発言で、継続した指導を。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	月一回のアンケートや生徒指導委員会での情報交換など、実態把握と指導に努めているが、大人の見えないところで行われるため難しいところも多い。	B	・けんかをする姿はあまり見かけなくなった。 ・芽が小さいうちに摘み取ることで成果が上がっている。 ・信頼関係の更なる構築により、困っていることが言えない子にも注意を払い、継続した実態の把握と指導を。 ・関係諸機関との連携を深め、不登校児童への対応を継続する。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	廊下の歩き方やあいさつ、言葉遣いなど意識して取り組んでいる。	A	・指導が成果をあげている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	行事の校内持久走大会があるときなどは、進んで走る児童も増えたが、寒くなり、外で遊ぶ児童が少なくなった。体育部として年間の取り組みが必要。	B	・持久走大会での様子等から、体力の著しい低下は見受けられない。 ・様々な場面で体力向上を図っていく必要がある。 ・公園等での子供の遊びが変化している。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	栄養士、給食委員会が中心となって活動しているが、食育に関しての授業をするなど、工夫が必要。	A	・栄養士、給食部を中心とした取組に成果が見られる。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、PTA活動や地域活動に関心をもち、保護者・地域と連携協力している。	A	保護者も協力的で、休みの日の行事なども教職員が自主的に参加している。	A	・昔遊び交流会やあいさつ運動で定期的、継続的な連携協力を図っている。 ・無理のない範囲で、地域の協力要請があってもよい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	PC補助員を中心に、定期的にホームページの更新作業が実施されている。	A	・定期的に情報を公開している。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	保護者による読み聞かせや図書室の掲示、行事ごとに協力など学校応援団の活動も活発であり、毎月のあいさつ運動など協力して取り組んでいる。	A	・計画的に参加できるように、活性化の工夫をしている。 ・教職員に負担のない程度に、地域を巻き込んだ取組を進めるとよい。